

進化経済学会ニューズレター

No.48 July 2020

進化経済学会事務局

〒171-8501

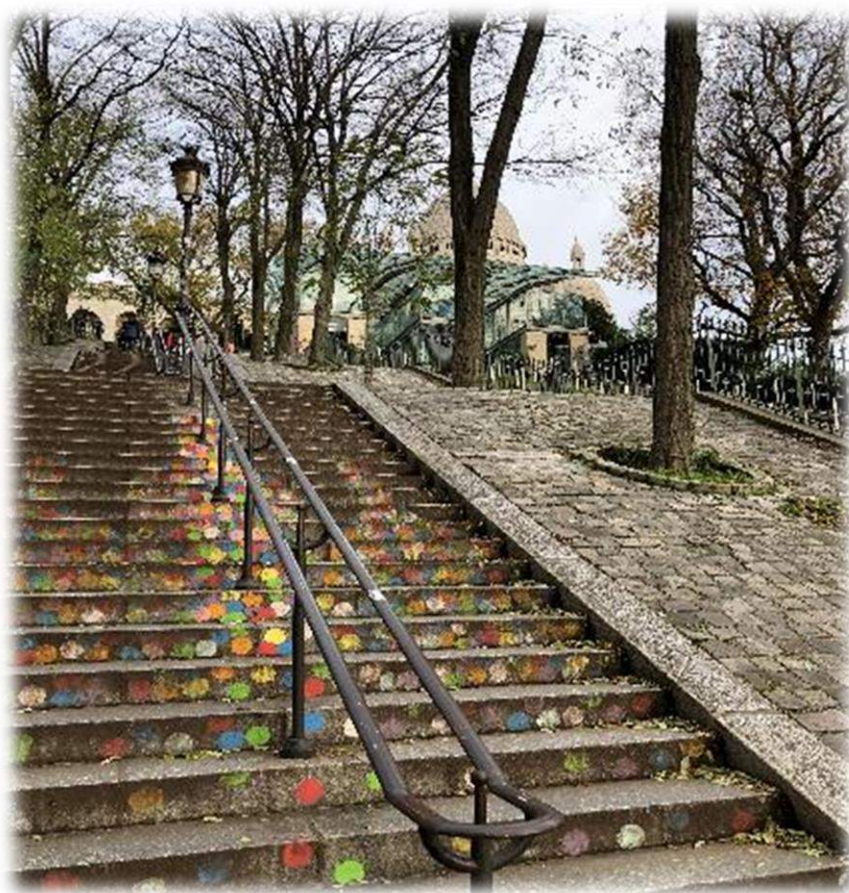
東京都豊島区西池袋3-34-1

立教大学経済学部

荒川章義

03-3985-2345

a-arakawa@rikkyo.ac.jp



撮影：西洋（モンマルトル：パンデミック前）

+++++

第 24 回進化経済学会仙台大会を終えて

2019 年度若手セミナー開催報告

第 24 回進化経済学会仙台大会オンライン理事会議事録

第 24 回進化経済学会仙台大会オンライン総会議事録

進化経済学会デジタル・コミュニティ通貨 JAFEE 創設の提案

進化経済学会フェロ-規定

第 5 回進化経済学会学会賞並びに第 1 回進化経済学会奨励賞応募要項

進化経済学会第 24 回仙台大会総会会計関係報告

2019 年度部会報告

進化経済学会静岡大会（静岡大学）・オータムコンファレンスのご案内

Evolutionary and Institutional Economics Review(EIER)の現状報告

Evolutionary and Institutional Economics Review, Vol. 17, No. 1 のご案内

会員異動

+++++

第 24 回進化経済学会仙台大会を終えて

第 24 回仙台大会実行委員長
黒瀬一弘（東北大学）

2020 年 3 月 28-29 日に東北大学に於いて開催予定であった第 24 回進化経済学会仙台大会は、新型コロナウイルスの感染拡大状況を考慮し延期されました。5 月末に仙台高等専門学校にて通常通り開催する可能性を検討しましたが、新型コロナウイルス問題の終息が見込めないことから通常通りの開催を断念し、2020 年 5 月 23-24 日にオンラインで開催いたしました。オンライン開催は進化経済学会史上初の試みであり、多くの学会員の皆さまに参加していただけるか心配しておりましたが、2 日間でプレナリーセッションが 1 つと 15 のパラレルセッションを開催することができ、延べ人数で 300 名ほどの方々にご参加いただきました。海外からも参加していただきました。ありがとうございました。

オンライン開催には不安がありましたが、既にオンラインで開催していた他学会の HP などを参考にしながら準備を進めました。学会当日に不測のトラブルが起こることを懸念しておりましたが、特に大きなトラブルもなく、どのセッションにおいても活発な議論が展開されていたように思います。大会実行委員の人数が限られていましたので、最低限の Zoom 環境しか整えることができませんでしたが、オンライン大会を成功裡に終えることができたのは、ひとえに学会員の皆さまのご協力とご理解があったからだと思っております。実行委員を代表いたしまして皆さまに厚く御礼申し上げます。

ただ 1 点、残念なことがありました。Zoom の URL とパスワードは学会員のみへの公開でありパスワードの取り扱いに注意していただくよう実行委員よりお願いしておりましたが、一部の学会員が実行委員の承諾を得ることなく非学会員に Zoom の情報を漏洩させていたことが判明しました。幸いなことに今回は特にトラブルは発生しませんでした。健全なインターネット社会の維持には、IT リテラシーが何より肝要です。学会員お一人お一人の意識の向上を期待いたします。

仙台大会のテーマは「デジタル化がもたらす資本主義経済社会の進化」でした。当初は初日にテーマに副ったプレナリーセッションを用意していましたが、大会が延期されたこと、そして新型コロナウイルスの蔓延が世界的な問題になったことを踏まえ、大会のテーマとは趣旨が異なりますが東京工業大学の出口弘会員に「確率的な感染制御のための施策デザイン」と題してプレナリーセッションでの講演をお引き受けいただきました。出口会員は政府が新型コロナウイルス対策に利用している SIR モデルの弱点を指摘され、境界条件を詳細に展開し精緻な接触構造を組み込んだエージェント・ベース・モデルによるシミュレーション結果をご説明されました。また、都市でのアウトブレイクを制御するための政策提言について新しい知見を紹介されました。出口会員の講演は、エージェント・ベース・モデルという進化経済学的手法が社会実装においても大いに期待できるということを示したと思います。

2 日目には進化経済学会賞の受賞講演があり、本年度は西部忠会員・草郷孝好会員・吉地望会員・橋本敬会員・小林重人会員・栗田健一会員・吉田昌幸会員・宮崎義久会員の共著『地域通貨によるコミュニティ・ドック』（専修大学出版局、2018 年）に授与されました。受賞講演では、執筆者各々が一言ずつ同書の執筆における貢献や苦労話などをされ、西部会員が同書全体に関わる意義や今後の発展などについてお話しされました。

最後になりますが、本大会は宮崎義久会員及び本吉祥子会員のご協力なしには開催不可能でした。この場をお借りしてお二人のご尽力に深謝申し上げます。

2019 年度若手セミナー開催報告

瀬尾 崇（金沢大学）

昨年度の若手セミナーは、年次大会の延期開催に伴い、それに合わせて企画セッションとして 2020 年 5 月 23 日に開催した。今回を含めて過去 3 回は、年次大会参加者の便宜を考慮して、大会期間中の企画セッションとして開催してきた。今回は、Zoom によるリモートでの大会開催という前例のない形式であったが、当該セッションには約 20 名の参加者があった。

今回の若手セミナーは、「学会活性化セミナー」と名称を変更して開催した。この背景には、ここ数年の若手セミナーへの若手会員の参加状況、とりわけ前回の名古屋大会では、参加者がほとんどいなかったという事情を鑑み、若手セミナー運営担当で、今後の若手セミナーのあり方や意義についてメールで議論してきた。その過程でシニア会員の先生方からも意見を伺いながら、新たな方向性を模索した結果、今回は、今後の方向性に対する我々運営サイドの意見表明も込めて名称を変更し、具体的な運営に関する提案は、次回の大会の理事会及び総会でご提案させていただくことにした。

今回のセミナーのテーマは、全体と同様、「学部学生向けの進化経済学の講義の在り方」とし、まず前半 40～50 分は、若手セミナー運営担当の一人である私（瀬尾）が話題提供、『『週 2 コマ全 16 回の 2 単位科目で進化経済学を 1 人で講義してみた』授業実践報告』というタイトルで報告した。これは、昨年度後期に、金沢大学で過年度生向け科目を利用して試験的に行った進化経済学の講義に関する実施報告である。

私が行った講義では、その開講前の準備段階で、過去および現在、全国で実施されている講義名に進化経済学を明示したシラバスを検索し参照した。しかし、単独にしろオムニバスにしろ過去の事例はほとんどなく、結局、ゼロから全 16 回の講義スケジュールを組むことにした。今回のスケジュールは、進化経済学の導入（生物進化と経済進化、学史的なフォロー）、進化経済学のミクロ理論（合理性の限界に直面した個人・企業の行動）、進化経済学のマクロ理論（イノベーションを中心とした変動理論、マクロの対象範囲のシステム論的理解）、進化経済学のメゾ理論（制度論、レギュラシオン理論）を骨格とした。そこに Nelson-Winter モデルの概略および Excel によるシミュレーションの実行と結果の解釈、ロトカ＝ヴォルテラ・モデルのシステムダイナミクスを用いたモデル構築の実習を加え、結果的にかなり盛り沢山の内容となった。最終回には塩沢由典会員にゲストスピーカーとしてご登壇いただき、「現在、進化経済学は何を目指しているのか」という総括的なテーマで講義していただいた。

全 16 回の途中で数回、履修した学生（75 名）にレポートを課し、何が理解できたか、あるいは何がわからなかったか、意見聴取を行った。その結果も一部、今回の報告で紹介した。

セッションの後半では、「どのようなカリキュラム編成がありうるか」、「進化経済学の独自性をどのように授業でアピールするか」、「何を教科書として使用するか」という 3 つのテーマを設定し、Zoom 内でグループワークを行い、その後、全体で意見を共有した。第 1 のテーマに関しては、いわゆる『赤本』の使い方、学生の理解の目標をどう設定するかが重要、といった意見が寄せられ、第 2 に関しては、標準的経済学との相違から入って、どのような経済体系になるかを講義するとか、日本方生産システムの偶然的要素と意図的要素あるいは産業現場のムダのような事例を導入として話すといった、それぞれの工夫が寄せられた。第 3 の教科書に関しては、現状、いわゆる鉄板のテキストが確立されていないなかで、具体的な候補が挙げられたり、教科書の内容はどうあるべきかの意見交換が行われた。

今回の若手セミナーは、今後の方向性を探る意味で、従来の若手セミナーの趣旨を継承しながらも若手会員に限定せず、できるだけ多くの会員を巻き込みながら若手会員にも刺激的な議論の場になるように企画した。今年度の理事会および総会で具体的な方向性をご提案できるよう、運営サイドで案を取り

まとめ、今年度にも、新しい方向性でセミナーの開催を目指したいと考えている。会員各位のご協力をぜひお願いしたい。

第 24 回進化経済学会仙台大会オンライン理事会議事録

日時：2020年5月23日（土）12:10~13:10

場所：ZOOMによるオンライン開催

出席者：西部忠（会長）、磯谷明德（副会長）、徳丸宣穂、浅田統一郎、有賀裕二、池田毅、依田高典、植村博恭、宇仁宏幸、江頭進、吉地望（監査）、黒瀬一弘（大会組織委員長）、瀬尾崇、出口弘、中原隆幸、鍋島直樹、西洋、橋本敬、服部茂幸、原田裕治、廣瀬弘毅（監査）、福留和彦（会計）、八木紀一郎、吉田雅明、荒川章義（事務局）

欠席（委任状あり）：

欠席（委任状なし）：青山秀明、佐々木啓明、塩沢由典

1. 報告

1. 1 西部忠会長挨拶

西部会長より仙台大会オンライン開催に際して挨拶があった

1. 2 黒瀬一弘大会実行委員長より大会開催状況報告

黒瀬大会実行委員長より大会開催状況報告があった

1. 3 会勢報告

荒川事務局担当理事より資料に基づき会勢報告があった

1. 4 日本経済学会連合報告

池田担当理事より開催されていない旨報告があった

1. 5 各部会報告

ニューズレターに掲載のため省略

1. 6 若手セミナー開催報告

瀬尾担当理事より学会活性化セッションとして開催予定であるとの報告があった

1. 7 オータムコンファレンス開催日時と会場について

荒川事務局担当理事より次年度のオータムコンファレンスは、2020年9月19日（土）に、次年度本大会は3月27日（土）・28日（日）に静岡大学静岡キャンパスで開催予定である旨報告があった。

2. 議題

2. 1 入退会について

荒川担当理事より、入会希望者及び退会者の提案がなされ、提案通り了承された

2. 2 2018年度会計決算報告

福留会計担当理事が2018年度の会計決算報告を行い、了承された

2. 3 2019年度決算報告

福留会計担当理事が2019年度の暫定的な会計決算報告を行い、了承された

2. 4 2020年度予算について

福留会計担当理事が2020年度の予算案について説明を行い、了承された

2. 5 進化経済学会賞選考委員会委員長並びに委員の交代について

荒川担当理事より、次年度の学会賞選考委員会委員長並びに委員が、岡敏弘（京都大学）（委員長）（新任）、生稲史彦（筑波大学）（新任）、植村博恭（横浜国立大学）（留任）、服部茂幸（同志社大学）（留任）となること提案され、了承された。

2. 6 進化経済学会学会賞・進化経済学会奨励賞規程細則の追加について

荒川担当理事より、進化経済学会学会賞・進化経済学会奨励賞規程に細則を追加することが提案され、了承された。

2. 7 第5回学会賞および第1回奨励賞の募集要項について

荒川担当理事より、第5回学会賞および第1回奨励賞の募集要項について提案され、了承された

2. 8 フェロー選考委員会の設置について

有賀裕二会員、藤本隆宏会員に関してフェローへの推薦があり、これを認めるとともに、植村博恭理事、吉田雅明理事、江頭進理事より構成されるフェロー選考委員会を設置することが了承された。

2. 9 進化経済学会通貨 JAFEE 創設について

西部会長より資料に基づき進化経済学会通貨 JAFEE（仮称）を創設することが提案された。これに対して会計処理上の問題などさまざまな論点が議論されたが、大枠で了承され、詳細な制度設計に関しては別途タスクフォースを設置して検討されることとなった

3. その他

文責：事務局担当理事荒川章義

第 24 回進化経済学会仙台大会オンライン総会議事録

日時：2020年5月24日（日）13:00~14:00

場所：ZOOMによるオンライン開催

1. 議長の選出

山本英司会員を議長に選出した

2. 西部忠会長挨拶

西部会長より仙台大会オンライン開催に際して挨拶があった

3. 黒瀬一弘大会実行委員長より開催状況報告

黒瀬大会実行委員長より大会開催状況報告があった

4. 若手セミナー開催報告

瀬尾担当理事より学会活性化セッションとして開催したとの報告があった

5. 会勢報告

荒川事務局担当理事より資料に基づき会勢報告があった

6. 2018年度決算報告ならびに監査報告

福留会計担当理事が2018年度の会計決算報告を行い、了承された

7. 2019年度決算中間報告

福留会計担当理事が2019年度の暫定的な会計決算報告を行い、了承された

8. 2020年度予算について

福留会計担当理事が2020年度の予算案について説明を行い、了承された

9. 進化経済学会奨励賞の設置について

荒川事務局担当理事より本年度より進化経済学会奨励賞が新たに設置されたことが報告された

10. 第5回学会賞ならびに第1回奨励賞の募集について

荒川事務局担当理事より、第5回学会賞並びに第1回奨励賞の募集要項が報告された

11. 2019年度学会賞の発表と記念品贈呈式

2019年度学会賞が、西部忠編著『地域通貨によるコミュニティ・ドック』（専修大学出版会、2018年）に授与されることが発表され、記念品が贈呈されることが報告された

12. 進化経済学会通貨 JAFEE 創設について

西部会長より資料に基づき進化経済学会通貨 JAFEE（仮称）を創設することが提案され、詳細な制度設計に関しては別途タスクフォースを設置して検討されることが報告された

13. 次年度開催校

荒川事務局担当理事より次年度のオータムコンファレンスは、2020年9月19日（土）に、次年度本大会は3月27日（土）・28日（日）に静岡大学静岡キャンパスで開催予定である旨報告があった

文責：事務局担当理事荒川章義

【資料】

進化経済学会会勢

2019年9月6日時点

進化経済学会会勢状況	
個人会員	359 (入会 2 退会 4 休会 4 含む)
個人終身正会員	12
院生会員	43 (入会 1 休会 3 含む)
賛助会員/団体	0
賛助会員/特別	0
招待会員	2
個人準会員	1
417	

2020年3月18日時点

進化経済学会会勢状況	
個人会員	358 (入会 4 退会 3 休会 4 含む)
個人終身正会員	14
院生会員	43 (休会 3 含む)
賛助会員/団体	0
賛助会員/特別	0
招待会員	2
個人準会員	1
418	

進化経済学会デジタル・コミュニティ通貨 JAFEE 創設の提案

提案者 西部 忠

【目的】

進化経済学会は、会員が英文ジャーナル Evolutionary and Institutional Economics Review (EIER)の編集・査読、大会運営（本大会、オータムコンファレンス）、理事会運営、事務局運営、EIER 編集長・副編集長、会長・副会長・事務局長の役務等の各種ボランティアサービスを提供することによって再生産されています。ところが、こうしたボランティアサービスは表立って評価されることが少ないシャドウワークであるため、一部の人に負担が集中したり、担い手を探すのに苦労したりすることがしばしば見られます。

会員からこうしたボランティアサービスをもっと提供してもらい、会員間の負担の平準化を図るために、新たに創設する進化経済学会デジタル-コミュニティ通貨 JAFEE（仮称）によって、ボランティアサービスを可視化し、明確な価値評価を行うことを提案します。

各種ボランティアサービスへのインセンティブを形成するために、JAFEE を進化経済学会での会費、終身在籍権、大会参加費、書籍・資料購入費その他の物品・サービスの対価（の一部）として使用できるようにし、JAFEE で入手可能な物品やサービスの一覧を掲げる JAFEE 市場を立ち上げます。

そうすることによって、ボランティアサービスへの積極的な参加を促し、負担の平準化を図れるとともに、会員間交流を活発にするような制度設計を考えたいと思います。

つまり、JAFEE 創設の目的は、次の3点です。

- 1) ボランティアサービスの可視化と価値評価
- 2) ボランティアサービスへのインセンティブの形成
- 3) ボランティアサービスへの積極的参加の促進、負担の平準化、会員間交流の活性化

【名称・価値単位】

「日本進化経済学会」の英語名 Japan Association for Evolutionary Economics の略称「JAFEE（ジャフィー）」（仮称）を進化経済学会デジタル-コミュニティ通貨の名称および価値単位とします。「1JAFEE = 1円」を価値基準としますが、JAFEE は円に換金できません。

【特徴】

進化経済学会会員間での使用に限定されたコミュニティ通貨（地域通貨）であり、また、サーバーとスマホ・アプリを利用するデジタル通貨です。各会員および事務局が口座を開設し、会員は一定のマイナスポイント（例えば、-1,000）まで、事務局は無制限のマイナスポイントまで使用可能なように設計した LETS (Local Exchange Trading System) 型コミュニティ通貨（地域通貨）です。提案者の知るところ、デジタル学会内通貨の試みは世界初です。

【使用法】

デジタル-コミュニティ通貨アプリ C.C.Wallet (<https://www.3c3s.org/product>)（注）は、会員がスマホ用アプリのダウンロードサイト(Apple Store か Google Play)で自分のスマートフォンにインストールし、C.C.Wallet で ID(自分のメールアドレス)、ハンドルネーム、パスワードを登録します。C.C.Wallet 内には全国のデジタル-コミュニティ通貨があるので、「関東」から「進化経済学会通貨 JAFEE」を探して、それで取引を行ってください。

自分が相手の、あるいは相手が自分の QR コードをスキャンして対面取引(通貨を「おくる／もらう」)をするか、QR コードを送付したり、取引相手のハンドルネームを入力して遠隔取引(通貨を「おくる／もらう」)ができます。

事務局が年度末に当該年度における各会員のボランティアサービスの寄与に応じてポイントを付与します。各種のボランティアサービスに対する評価ポイントは、予め事務局と EIER 編集部が設定し、会員に提示しておく必要があります。各会員は、進化経済学会における各種支払い、および、会員相互のボランティアサービスへのお礼や事務局、会員への寄付などに使用します。

【規約と運営方法】

以下の諸点を含む規約や運営方法は、運用開始時期(2021年3月31日)までに事務局が EIER 編集部と話し合っ決定し、会員にお知らせします。

- ・各会員のマイナス限度額の設定
- ・EIER の編集・査読、大会運営、理事会運営、事務局運営、EIER 編集長・副編集長、会長・副会長・事務局長・理事の役務等の各種ボランティアサービスについての対価の設定
- ・各年度末における各会員のボランティアサービスに対するポイント付与の具体的方法
- ・C.C.Wallet 使用に関する運用者 3C3S との取り決め

【実施開始時期】

2021年3月(予定)

以上

(注)

C.C.Wallet とは、株式会社デザイニウム(<https://www.thedesignium.com/>)が提供しているスマートフォン用デジタル-コミュニティ通貨アプリケーションです。運用サーバは株式会社ジイシイ企画(<http://www.gck.co.jp/>)が提供しています。両企業は本事業を営利目的としてではなく、以下で説明するコンソーシアム 3C3S における産学官民連携事業として取り組んでいます。C.C.Wallet は基本的に無償で利用できますが、新通貨創設を希望する場合、3C3S へ事業企画書を提出し、理事会の審査を通過すれば、新通貨が認められます。現在、進化経済学会通貨 JAFEE はテスト期間として試用を認められています。

2019年2月に札幌で、産学官民連携により持続可能な経済社会の構築へ寄与することを目的として、持続可能社会のためのコミュニティ通貨研究コンソーシアム(Consortium of Community Currency Study for Sustainable Society: 3C3S)(<https://www.3c3s.org/>)が結成され、デジタル地域通貨に関心を持つ企業、銀行、大学が参加して各種の実験プロジェクトを行なっています。本提案者は 3C3S の代表です。

3C3S ではすでいくつかの実験プロジェクトが実施されています。実験プロジェクトの趣旨は、各プロジェクトから生まれるデジタルデータ(ビッグデータ)を共有して産学官民共同で各種分析(ネットワーク分析、流通速度分析や AI を利用するシミュレーション等)を行うとともに、各プロジェクト参加者に集計情報や分析結果をフィードバックして、地域経済や地域コミュニティの活性化を支援することにあります。

進化経済学会は、C.C.Wallet を利用する進化経済学会通貨 JAFEE の事業企画書を 3C3S 理事会に提出し、承認後に JAFEE の運用を開始したいと考えています。

進化経済学会フェロー規定

制定：2015年3月21日 理事会

改正：2019年3月16日 理事会

第1条 本学会は、本学会会則第2条（学会の目的）にそつた理論および実証研究、学会運営、普及・教育活動において顕著な貢献をおこなつた会員を理事会の決定により、フェロー（JAFEE Fellow）として表彰する。

第2条 フェローは会員である限り、理事でない場合でも理事会に出席して学会活動に対して参考意見を述べることができる。

第3条 フェロー候補者の推薦をおこなうことができるのは理事2名で、推薦理由を記した推薦書を会長に提出してこれをおこなう。

第4条 候補者の推薦を受けた会長は、推薦者以外の理事3名からなる選考委員会を設置し、フェロー候補者としての適否を検討させる。

第5条 選考委員会が第3条で推薦された会員をフェロー候補者として適格と判断した場合、その会員を理事会にフェロー候補者として推挙する。理事会はそれについて審議をおこなつてフェローとしての表彰を決定する。

第6条 理事会はフェロー表彰の該当者に通知をおこない、学会のホームページに公示する。

第7条 本規程の改廃は理事会の決議によつて行う。

付則

1. 本規程は2015年3月21日から施行する。
2. 改正規定は2019年3月16日から施行する。

第5回進化経済学会学会賞並びに第1回進化経済学会奨励賞応募要項

2020年3月28日

進化経済学会学会賞選考委員会

岡敏弘（委員長）、生稲史彦、植村博恭、服部茂幸

第5回進化経済学会学会賞並びに第1回進化経済学会奨励賞の選考対象となる会員の著作を以下の要項で募集します。この賞の選考についての詳細は、学会ホームページに掲載されている「選考にかんする細則」によることとされていますので、応募の際にはそれをご参照ください。多数の応募をお待ちします。

1. 選考対象

募集締め切り時を基準に過去3年以内（今回の場合、2017年5月1日－2020年4月30日）に公表された会員の著作（論文、著書）。

なお、上記の期間内に *Evolutionary and Institutional Economics Review* に掲載された上記の応募資格をみたま Article および Note、および昨年度応募し今年度も応募期間に合致する著作は自動的に選考対象となります。

2. 応募方法

自薦または他薦によります。応募者または推薦者は、推薦対象の著作2部（コピーあるいは電子ファイルも可）を「推薦理由書」とともに選考委員会に送付します。

「推薦理由書」は、学会のホームページからもダウンロードできます。

学会賞・奨励賞とも推薦書は同じです（45歳以下の人は学会賞・奨励賞の両方で審査を行います）。

3. 受付期間と応募宛先

2020年4月1日から4月30日（締切日消印有効）

電子応募もできますが、必ず受け取りの確認を得てください。

〒606-8506 京都府京都市左京区吉田本町 京都大学経済学研究科

岡敏弘研究室「進化経済学会学会賞選考委員会」宛て

あるいは oka@econ-kyoto-u.ac.jp 宛て

4. 公表・授賞

2020年のオータムコンファレンスで公表し、翌年3月の会員総会で賞状と副賞（賞金）を与えます。

進化経済学会学会賞並びに進化経済学会奨励賞推薦理由書

年 月 日 受付 受付番号

推薦者 (連絡メアド)	
推薦著作*	公表形態 ()、公表時期 (年 月)
著者 (連絡メアド) *	推薦著作公表時会員籍があったかどうか (有・無) **
推薦理由	
推薦著作の評価 にあたって留意 すべき点	

* 対象となる著作の要件は「学会賞規程」および「選考に関する細則」を参照。

**この情報は、記載を省略してかまいません。

以下は進化経済学会奨励賞の審査対象となる場合のみ記載してください。

主たる著者 (複数も 可)と生年 月日	
------------------------------	--

進化経済学会第 24 回仙台大会総会会計関係報告

2020 年 5 月 24 日(日) Zoom オンライン総会
会計担当理事・福留和彦

1. 2018 年度 (平成 30 年度) 収支計算報告等

資料 1「監査済 2018 年度収支計算書決算報告」参照

2. 2019 年度収支計算中間報告 (4/1/2019~2/29/2020)

資料 2「2019 年度収支計算書中間報告」参照

2-1. 収入側 (◆印は 3/31 見込)

会費収入： 3,275,000 円 (2/28 時点)

大会収入： オータム◆100,000 円, 本大会◆600,000 円 (2019 年度予算通り)

2-2. 支出側 (◆印は 3/31 見込)

大会費 : オータム◆400,000 円, 本大会◆700,000 円

英文誌編集刊行費 (シュプリンガー・ジャパン) : 4,380,000 円

通信費 (会計監査書類の郵送代) : 1,530 円

事務用品費 (楯代) : ◆10,000 円

謝金 (サーバー代等) : 16,266 円

送金手数料 (出金口座からの各種振込, 入金口座から出金口座への移金) : 8,086 円

事務委託費 (株 国際文献社への支払) : 560,064 円

部会補助費 (2 件 : 「制度と統治」部会, 観光学研究部会) : ◆34,730 円

経済学会連合会費 : ◆35,000 円

学会賞 : ◆50,000 円

次期繰越金 (2019 年度繰越金) : ◆2,810,557 円

* 参考 : 2018 年度繰越金 : 4,929,216 円

* 説明 : 次期繰越金が大幅に減少しているのは, 上記「英文誌編集刊行費」が例年より約 220 万円増加しているため。これは, 英文誌の発行時期の変更により, 今年度 (2019 年度) 予算から執行されたことが原因。従って, 次年度 (2020 年度) 当該費目の予算はゼロ円計上としている (☞ 資料 2 の【注記】5, および資料 3 を参照)

2-3. 貸借対照表

資料 2「貸借対照表 (2020 年 2 月 29 日現在)」参照

3. 2019 年度予算

資料 3「進化経済学会 2020 年度予算」参照

3-1. 収入

会員収入 : 2019 年度見込 (一部 2018 年度実績) に基づいているが, 会勢拡大による会費収入の増額が求められる

大会収入 : 2019 年度仙台大会の結果が出ていないが, 前年度 (2018 年度名古屋大会) 実績を踏まえてオータム 100,000 円, 本大会 600,000 万円とする

3-2. 支出

大会費 : 2019 年度と同額を維持

英文誌刊行費 : ゼロ円計上 (上記「2-2*説明」参照。2020 年度のみの措置)

通信費 : 2019 年度と同額を維持

事務用品費 : 2019 年度と同額を維持

謝金 : 2019 年度と同額を維持

送金手数料 : 2019 年度と同額を維持

事務委託費 : 2019 年度と同額を維持

部会補助費 : 2019 年度と同額を維持 (若手セミナー分含む)

学会賞 : 2019 年度と同額を維持

経済学会連合会費および予備費 (資料3【注記】支出側3を参照) は 2019 年度と同額を維持

※資料4「繰越金推移 2007~2019 年度 (予想)」

資料1

進化経済学会 2018年度 収支計算書決算報告 (2018年4月1日～2018年3月31日)

収入	平算案	決算額	増減	支出	平算案	決算額	増減
会費	3,107,000	3,552,000	450,000	大会費	1,100,000	1,019,578	-80,522
	2,910,000	2,880,000	-30,000	オーガム・コンgres	400,000	324,073	-75,127
				本大会	700,000	694,905	-5,195
正会員当年度	380,000	380,000	0	華文社編集代行費	2,200,000	2,160,000	-40,000
幹事正会員	50,000	50,000	0	通信費	20,000	1,580	-18,420
正会員当該年度	90,000	90,000	0	交通費	0	0	0
正会員増減率分	35,000	35,000	0	雑費	80,000	9,230	-70,780
	2,000	2,000	0	理事報酬費	20,000	10,800	-9,200
準会員	50,000	50,000	0	雑費	20,000	8,480	-11,520
賛助会員当該年度	30,000	30,000	0	送迎手配費	0	0	0
その他(前年度費)	0	0	0	余剰費	0	0	0
				大会費	0	0	0
大会収入	850,000	744,007	-105,999	印刷費	0	0	0
	150,000	122,000	-28,000	事務局経費	650,000	592,779	-57,221
オーガム・コンgres	100,000	62,001	-77,999	国際交流会費	0	0	0
本大会	0	0	0	学費	150,000	40,950	-109,050
CD販売	0	0	0	経済学術組合会費	35,000	35,000	0
	0	0	0		100,000	50,000	-50,000
利庫	0	0	0		0	0	0
借入金	0	0	0				
書籍附加代	0	0	0				
定額課税料	0	0	0				
利目的	0	1,637	1,637				
				平償還	100,000	0	-100,000
				当期支出合計	4,475,000	3,928,437	-546,563
当年度入会費	3,952,000	4,297,647	345,647	繰越金	4,037,008	4,928,218	892,210
前年度繰越	4,560,008	4,560,006	0				
合計	8,512,008	8,857,653	345,647	総計	8,512,008	8,857,653	345,647

(単位:円)

貸借対照表 (2019年3月31日現在)

借方	貸方
現金	正正味財産
預金	前年度繰越
普通預金	4,999,218
郵便振替	
	正正味財産
未収金	4,999,218
	次期繰越金
	前年度繰越金
合計	4,999,218

(単位:円)

財産目録 (2019年3月31日現在)

科目	管理部門	金額
流動資産		
現金		4,999,218
預金		
積立		
未収金		824,323
資産合計		4,999,218

(単位:円)

上記の通り相違がないことを確認いたしました

2019年 8月 13日

進化経済学会総査委員

吉地 望

上記の通り相違がないことを確認いたしました

2019年 8月 21日

進化経済学会総査委員

廣瀬 弘毅

進化経済学会

2019年度 収支計算書中間報告
(2019年4月1日～2020年2月29日)

資料2

貸借対照表
(2020年2月29日現在)

2020年5月24日

収入	予算案	決算額	増減	支出	予算案	決算額	増減
会費	2,937,000	3,275,000	338,000	大会費	1,100,000	0	-1,100,000
				オーガム・コンピュータレンス	400,000	0	-400,000
				本大会	700,000	0	-700,000
				英文誌編集刊行費	2,200,000	4,380,000	2,180,000
				通信費	20,000	1,530	-18,470
				交通費	0	0	0
				雑費	0	0	0
				事務用品費	0	0	-80,000
				贈金	20,000	16,266	-3,734
				送金手数料	20,000	8,086	-11,914
				会議費	0	0	0
				印刷費	0	0	0
				事務委託費	650,000	580,064	-69,936
				国際会議費	0	0	0
				学費	150,000	35,000	-115,000
				経済学会連合会費	35,000	0	-35,000
				学費	100,000	0	-100,000
当期収入合計	3,637,000	3,375,017	-261,983	学費	100,000	0	-100,000
前期繰越金	4,929,216	4,929,216	0	当期支出合計	4,475,000	4,965,946	490,946
繰越金				繰越金	4,091,216	3,382,687	-789,529
総計	8,566,216	8,304,233	-261,983	総計	8,566,216	8,304,233	-261,983

2019年度 収支計算書中間報告(2020年3月31日時点の見込み)
(2019年4月1日～2020年3月31日)

収入	予算案	決算額	増減	支出	予算案	決算額	増減
会費	2,937,000	3,277,000	340,000	大会費	1,100,000	1,100,000	0
				オーガム・コンピュータレンス	400,000	400,000	0
				本大会	700,000	700,000	0
				英文誌編集刊行費	2,200,000	4,380,000	2,180,000
				通信費	20,000	1,530	-18,470
				交通費	0	0	0
				雑費	0	0	-10,000
				事務用品費(※棚代)	80,000	10,000	-70,000
				贈金	20,000	16,266	-3,734
				送金手数料	20,000	8,086	-11,914
				印刷費	0	0	0
				事務委託費	650,000	580,064	-69,936
				国際会議費	0	0	0
				学費	150,000	34,730	-115,270
				経済学会連合会費	35,000	35,000	0
				学費	100,000	50,000	-50,000
大会収入	700,000	700,000	0	学費	100,000	0	-100,000
				前期繰越金	4,401,017	4,401,017	0
				繰越金	4,091,216	2,810,557	-1,280,659
				総計	8,566,216	9,006,233	440,017

【注記】
1. 本報告書は以下の4点
①2019年度 収支計算書中間報告(2019年4月1日～2020年2月29日) ②2019年度 収支計算書中間報告(2020年3月31日時点の見込み)
③貸借対照表(2020年2月29日現在) ④財産目録(2020年2月29日現在)
2. 収支計算書において、「会費」は2,937,000円を同額としていたが、3月中の納付に基づき繰上する
3. 収支計算書において、「大会収入」は2,200,000円計上する。本大会は未定
4. 収支計算書において、「学費」は2,200,000円計上する。本大会は未定
5. 収支計算書において、「英文誌刊行費」はEJERの発行価格の変更により、次年度(2020年度)予算から支出する予定のVol.17のNo.1, No.2の発行分(費用220万円)が、今年度(2019年度)予算から執行された。そのため(英文誌刊行費)400万円計上されている。(一編委委員と会計担当理事、シニアメンバーとの間で協議がまとまっている)
6. 学費ユーエーの1名から(寄付金(10万円))があった

借方	貸方
I流動資産	II流動負債
現金	前受会費
預金	
普通預金	1,007,699
郵便振替	1,260,588
預払金	II正味財産
	前期繰越金
	前期繰越金
	当期差額
合計	3,368,287

財産目録
(2020年2月29日現在)

科目	管理部門	金額
流動資産		
現金		
預金	会計担当理事	1,007,699
預払金	学委事務局(国際文庫)	1,260,588
仮払金	大会準備金	1,000,000
資産合計		3,368,287

科目	用途	金額
負債および正味財産の部		
流動負債		
前受会費		30,000
負債合計		30,000
正味財産合計		
	前期繰越金	4,929,216
	当期収支差額	-1,590,929
負債及び正味財産合計		3,368,287

【2】

【資料3】

2020年5月24日

資料3		進化経済学会 2020年度予算 (2020年4月1日 ~ 2021年3月31日)		(単位:円)	
		収入予算	予算額	支出予算	予算額
2019年度からの繰越(見込)		2,810,557	大会費	1,100,000	
			(内訳)		
			オータムコンファレンス	400,000	
			本大会	700,000	
			英文誌編集発行費	0	
会費		2,902,000			
(内訳)					
正会員 (2019年度見込)		2,760,000	通信費	20,000	
終身正会員(2018年度実績)		50,000	事務用品費	80,000	
院生会員 (2019年度見込)		90,000	旅費	20,000	
準会員 (同上)		2,000	送金手数料	20,000	
賛助会員 (同上)		0	事務委託費	650,000	
大会収入		700,000			
(内訳)			部会補助費	150,000	
オータムコンファレンス		100,000	学会賞	100,000	
本大会		600,000	経済学会連合会費	35,000	
(2019年度見込)					
書籍売却代(2019年度見込)		0	予備費	100,000	
定期購読料(同上)		0	小計	2,275,000	
			2021年度への繰越	4,137,557	
総計		6,412,557	総計	6,412,557	

【注記】

収入側

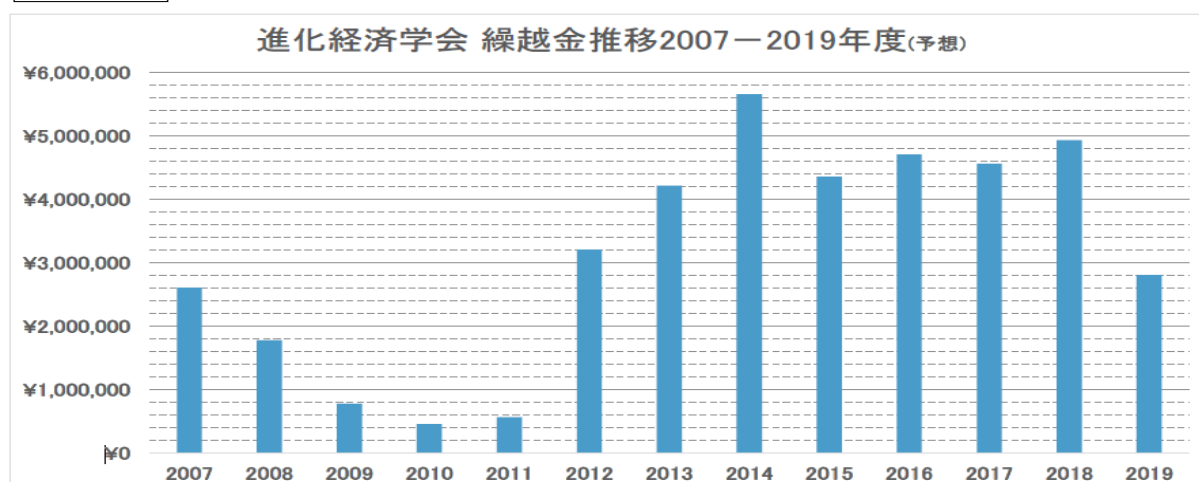
1. 2019年度からの繰越(見込)は、例年より220万円ほど減少。2020年度予算から執行するはずのEIER vol.17のno.1, no.2を2019年度予算で執行したため
2. 会費収入は前年比35,000円減 (※国際文献社より会費納入率78%と低く、長期滞納者の問題を指摘されている)
3. 大会収入は前年度(2019年度)予算と同額を計上 (※2019年度本大会は、2020年度に開催されたとしても2019年度大会収入とする)

支出側

1. 大会費は前年度(2019年度)予算と同額を計上 ※2019年度仙台大会(本大会)未実施分を上乗せしない
 一→ 2019年度仙台大会(本大会、3月28日・29日)が新型コロナウイルスの感染拡大により翌年度に延期することを決定した。既に本大会予算70万円を大会事務局に引き渡し済みであるが、年度が改まるため、会計処理としては未執行処理を行い、本大会予算未執行分70万円をいったん学会会計に返金し(※これは実施済みのオータムコンファレンスの残金と併せて)、新たに新年度(2020年度)大会予算に上乗せするのが原則である。しかし、原則に従わないと会計処理上重大な不都合が発生するわけでもない。従って、会計処理の間敏さを優先して、2019年度仙台大会(本大会)は開催時期を2020年度とするも、会計は2019年度予算の執行として処理することとする
2. 英文誌発行費は、EIER vol.17のno.1, no.2を2019年度予算から執行したため、0計上とする
3. 2020年度は役員選挙のため、予備費より役員選挙経費用(2017年度実績79,230円)を支出する見込み
4. その他項目は、決算に大きな変化がないため、前年度予算額を計上する

【資料4】

資料4



2019 年度部会報告

■「現代日本の経済制度」部会報告

(第1回研究会)

日時：2019年6月15日(土) 13:00~18:00

場所：静岡市産学交流センター「B-nest」(ビネスト) 演習室3

- ・ 小倉将志郎(駒澤大学)「バランスシートから見る米国大企業の金融化の実態」
- ・ 松原仁美(静岡大学)「フランスの貧困青年の就労支援をめぐる政策論争の変遷」
- ・ 嶋野智仁(松山大学)「Does structural change matter in the profit rate dynamics? – evidence from OECD countries」
- ・ コメント(原田裕治(摂南大学), 平野泰朗(元・福岡県立大学/摂南大学), 植村博恭(横浜国立大学))

(第2回研究会)

日時：2019年9月13日(金) 11:00-17:00

場所：横浜国立大学ランドマークタワー・サテライトキャンパス(横浜ランドマークタワー18階)
(横浜市)

- ・ Hironori Tohyama, "International Collaborative Research after Evolving Diversity and Interdependence of Capitalisms"
- ・ Akinori Isogai, "The Achievement of Our Twenty-years Collaboration with Robert Boyer"
- ・ Robert Boyer, "Lecture on *Economie politiques des capitalismes*"
- ・ Yuji Harada, "Book Review, *Economie politique des capitalismes*"
- ・ Hiroyasu Uemura, "Social Preference and Civil Society in the Political Economy of Capitalisms: An Imaginary Collaboration of Boyer and Bowles"
- ・ Kazuhiro Okuma, "Potential Mechanisms for the Social Regulation of Economies on Global and Local Scales: ESG Investment and Community Renewables"

(第3回研究会：制度と統治の部会との共催)

日時：2019年11月2日(土) 14:00-17:00

場所：阪南大学あべのハルカスキャンパス(大阪市)

- ・ 立見淳哉(著)『産業集積と制度の地理学：経済調整と価値づけの装置を考える』(ナカニシヤ出版, 2019) 合評会
- ・ コメント：山本泰三(大阪産業大学), 横田宏樹(静岡大学)

(第4回研究会：制度と統治の部会との共催)

レギュラシオンシンポジウム2020：制度・進化・多様性

日時：2020年1月25日(土) 10:25-18:30

場所：名古屋大学経済学部会議室(名古屋市)

- ・ 原田裕治(摂南大学)「ボワイエ『資本主義の政治経済学』記者解題：レギュラシオン理論の基礎と展開」
- ・ 植村博恭(横浜国立大学)「ボワイエ理論の到達点と理論的課題：国際共同研究の発展に向けて」
- ・ 中原隆幸(阪南大学)「レギュラシオン理論は「制度派総合」のコア理論となり得るか？」
- ・ 大熊一寛(環境省)「レギュラシオンアプローチによる環境政策研究と空間スケール」
- ・ 田原慎二(千葉商科大学)「現代日本の経済成長と蓄積体制論について」

- ・ 藤田真哉（名古屋大学）「仏教徒からみる負債論」
- ・ 藤田菜々子（名古屋市立大学）「レギュラシオン・アプローチとスウェーデン経済学史研究」
- ・ 横田宏樹（静岡大学）「レギュラシオン研究の多様化とフォーカルポイント」
- ・ 巖成男（立教大学）「レギュラシオン理論から見る中米貿易戦争：現状と展望」
- ・ 宇仁宏幸（京都大学）「資本主義の現在とレギュラシオンアプローチのこれから」

文責：西洋（阪南大学）

■「制度と統治」部会報告

第1回進化経済学会・「制度と統治」部会

日時：2019年5月11日（土曜日）14:00～18:00

場所：京都大学法経学部東館8階 リフレッシュ・ルーム

テーマ：「制度と調整の政治経済学」

プログラム：

- ・ 14:00～15:00 第一報告 宇仁宏幸（京都大学）「利潤率のマイクロ分析」
- ・ 15:00～16:00 第二報告 山本泰三（大阪産業大学）・北川巨太（関西大学）
ネグリにおける価値と労働—認知資本主義における価値論のための予備的考察」 「A.
- ・ 16:00～16:20 コーヒー・ブレイク
- ・ 16:20～18:00 全体議論：書籍『制度と調整の政治経済学』の刊行に向けて

第2回進化経済学会・「制度と統治」部会

日時：2019年6月16日（日曜日）13:00～18:00

場所：京都大学法経学部東館8階 リフレッシュ・ルーム

テーマ：「制度と調整の政治経済学」

プログラム：

- ・ 13:00～14:20 第一報告 宋磊（中国・北京大学）「製品特質とガバナンスメカニズムの関係に関する一般理論：公共経済学と比較政治経済学の統合に向けて」
- ・ 14:20～15:40 第二報告 高井亨（鳥取環境大学）「持続可能な開発目標はどれだけ達成されたのか」
- ・ 15:40～16:00 コーヒー・ブレイク
- ・ 16:00～17:20 第三報告 山田鋭夫（名古屋大学・名誉）「制度の内部代謝とレジーム危機」
- ・ 17:20～18:00 全体議論：書籍『制度と調整の政治経済学』の刊行に向けて

第3回進化経済学会・「制度と統治」部会

日時：2019年7月6日（土曜日）13:00～17:00

場所：阪南大学あべのハルカスキャンパス・第1セミナー室

テーマ：「担保の歴史的展開～担保制度及び対象資産の変遷の多面的検討」

プログラム：

司会・コメンテーター：高橋秀直（筑波大学）

- ・ 13：00～13：40 第一報告 宮坂渉（筑波大学）「古代ローマにおける物的担保」
- ・ 13：40～14：20 第二報告 池田雄二（阪南大学）「非典型担保の生成と展開」
- ・ 14：20～14：40 コーヒー・ブレイク
- ・ 14：40～15：20 第三報告 佐藤秀昭（住友史料館） 「銀行業・倉庫業の源流としての並合業—明治期住友本店の質物貸金を事例として」
- ・ 15：20～16：00 第四報告 金城亜紀（学習院女子大学） 「諏訪の製糸金融にみる銀行業と倉庫業のアンバンドンリング」
- ・ 16：00～17：00 全体議論

第4回進化経済学会・「制度と統治」部会

日時：2019年7月27日（土曜日）13:00～18:00

場所：京都大学法経学部東館1階 101 演習室

テーマ：「制度と調整の政治経済学」

プログラム：

- ・ 13：00～14：00 第一報告 藺田竜之介（佐賀大学）「産業レベルにおける調整の多様性：日本の分配レジームに関する産業別実証分析」
- ・ 14：00～15：00 第二報告 藤田真哉（名古屋大学）「ターゲットリターンプライシングと金融政策：カレツキアン・アプローチ」
- ・ 15：00～15：20 休憩
- ・ 15：20～16：20 第三報告 巖成男（立教大学）「中成長を模索する中国における社会保障制度改革」
- ・ 16：20～17：20 第四報告 嶋野智仁（松山大学）「日本経済の資本蓄積様式の変化要因：産業別での実証分析」
- ・ 17：20～18：00 全体議論

第5回 進化経済学会・「制度と統治」部会

日時：2019年8月3日（土曜日）13:00～18:00

場所：京都大学法経学部東館1階 101 演習室

テーマ： 「制度と調整の政治経済学」

プログラム：

- ・ 13：00～14：00 第一報告 呂守軍（中国・上海交通大学）「中国供給側構造改革」の制度的調整に関する分析」
- ・ 14：00～15：00 第二報告 徳丸宜穂（名古屋工業大学）「イノベーション政策の新展開とその組織的・制度的基礎」
- ・ 15：00～15：20 休憩

- ・ 15:20~16:20 第三報告 金峻永 (韓国・雇用情報院)「韓国におけるプラットフォーム労働者の規模の推定と社会的保護の課題」
- ・ 16:20~18:00 全体議論

文責：巖成男 (立教大学・部会事務局)

■「制度とイノベーションの経済学」部会報告

数年間休会していた「制度とイノベーションの経済学」研究部会の活動を2019年度に再開した。再開第1回目の研究会は、15名ほどの参加者を得て、2019年10月6日に京都大学百周年時計台記念館で開催された。

第1報告は福澤直樹氏(名古屋大学)による「経済秩序をめぐる近年のドイツでの諸議論：一つの研究動向として」であった。古典的自由主義とも集産主義とも異なる「新しい自由主義」として1920年代に登場したドイツの「オールド自由主義」が、戦後ドイツの経済政策にどのように根を下ろし、その過程でいかに変容したのかが論じられた。また、ドイツにおいてもアメリカ型の標準的経済学が優勢になったものの、金融危機やギリシャ危機という文脈の下ではむしろ、社会的要素をも統合的に考察するオールド自由主義が見直されるという側面もあるということが論じられた。

第2報告は加藤里紗氏(名古屋大学)「韓国の低炭素緑色成長戦略の継続と進展：二次・三次五カ年計画を中心に」であり、韓国の低炭素緑色成長戦略の一次から三次五カ年計画について内容が概説された。また、同戦略が国内の緑色成長ガバナンスの構築と、気候変動に関する国際的なガバナンスへの参加によって生成されたものであることを示し、大統領交代後も経路依存とグローバル環境ガバナンスの存在によって同戦略が継続されたことを示した。一方で温室効果ガス排出削減、再生可能エネルギーの普及、企業や市民社会との連携が引き続き課題として残されていることを指摘した。

2020年度には部会活動を本格的に再開し、京都および名古屋を中心に研究会を持っていくことを予定している。

文責：徳丸宜穂 (名古屋工業大学・部会事務局)

■「観光学研究部会」部会報告

昨年度観光学研究部会は4回の研究会を行った。

第39回研究会

日付：2019年7月28日(日)

場所：金沢大学サテライトプラザ

【特別講演】黒澤伸氏(金沢21世紀美術館)「北陸の美術館と国際展探訪」

第40回研究会

日付：2019年9月22日(日)

場所：レンタルスペース・貸会議室西堀

【特別講演】杉浦幹男氏(アーツカウンシル新潟)「新潟は北陸なのか？」

第41回研究会

日付：2019年12月1日(日)

場所：金沢大学サテライトプラザ

【特別講演】高野宏康氏(小樽商科大学)「北前船と北陸地方」

第 42 回研究会

日付：2020 年 2 月 11 日（火：祝日）

【特別講演】海老宏亮氏（電気新聞）「日本の電気事業と北陸」

【招待講演】前田洋介氏（新潟大学）「地域区分について考えるー新潟・北陸・中部地方に着目してー」

場所：ロイヤル山田

なお、本年度の活動経費は全てサントリー文化財団研究助成、“学際としての「北陸学」の構築を目指して”に支えていただいた。同財団に篤く御礼申し上げたい。

文責：井出明（金沢大学）

■「北海道・東北部会」部会報告

進化経済学会北海道・東北部会は 2019 年度、以下の活動を行いましたのでご報告申し上げます。2020 年 2 月 2 日に札幌市立大学にて、進化経済学会北海道・東北部会が開催されました。

第 1 報告：小池（相原）晴伴（酪農学園大学）

タイトル：日本における米の生産調整政策の転換と価格調整の役割～2018 年の「減反廃止」に至る状況と転換の影響～

第 2 報告：西部 忠（専修大学）

タイトル：Light-Color Money: Three-dimensional Digital Money That Can Express Uniqueness and Diversity of Value Beyond LETS

特別企画 電子地域通貨「Tarca（タルカ）」リポートセッション

第 1 報告：宮崎 義久（仙台高専）

「電子地域通貨 Tarca」のこれまでの実践

第 2 報告：江頭 進（小樽商科大学）

「新 Tarca」の狙いと展開

第 3 報告：「新 Tarca」のデモ

中山 仁史（株式会社 K2）

全体ディスカッション（パネリスト及びフロア）

第 1 報告では、酪農学園大学の小池会員から、減反廃止に至る状況とその影響について報告を、第 2 報告では西部会長から、新たなデジタルコミュニティ通貨「Light-Color Money」の提案について報告いただきました。今回は特別企画として、小樽市で実践されていた電子地域通貨「Tarca」の再起動セッションが開催され、Tarca の過去・現在・未来について仙台高専の宮崎会員、小樽商科大学の江頭会員、そして Tarca 開発者である株式会社 K2 の中山仁史さんに報告いただきました。参加者に新しくなった Tarca を実際に体験してもらい、Tarca を小樽の地域活性化にどのように役立っていくのかについて活発な議論が繰り広げられました。

文責 小林 重人（札幌市立大学）

進化経済学会静岡大会（静岡大学）・オータムカンファレンスのご案内

今現在、世界は私たちが経験したことのないコロナ禍に直面しています。これまでの暮らし方、経済の仕組み、社会のあり方、働き方、政治の役割などに大きな変化の波が押し寄せ、現状への対応とアフター・コロナ時代に向けて現代資本主義の変容が活発に議論されています。とりわけ、人の移動や経済活動の幅、そして生活空間の劇的な変化を受けて、国家に対する各地域の自律的な対応や政策がより注目されるようになり、地域単位の主体性が改めて問われてきています。

しかしながら、これまでの現代資本主義において、地域は国家を投影したかのような、国民的論理に制約づけられた社会経済的領域として位置づけられてきました。さらに、グローバリゼーションの進展は、社会経済システムの世界と生活空間を乖離させ、制度設計は国家によって担われ、地域は生活する場という空間における役割分担を加速させました。その結果として、政治や経済の機能はますます日本の中心としての大都市に集中され、地方から都市への人口移動は加速し、都市と地方の格差、さらには大都市に近い地方とそうでない地方の地域間格差が進みました。しかしその原因を、単なる国家レベルにおける政策的設計のみに帰することできるのでしょうか。むしろ、地域を一つの社会経済システムの単位として捉え、地域がそれ自体の制度を設計し、全体としてのメカニズムを生み出す能力の問題としても理解することができます。

グローバリゼーションの下で国による制度的影響力が問い直され、地域が自立的領域としての構築を求められる今日、各地域は地方にとって普遍的な問題とそれぞれに固有の問題を解決するために、多様な制度設計が必要とされています。そのためにも、現代資本主義の変容という文脈において、地域の変容あるいは進化を学術的および政策的にどのようにデザインすることができるのか、2020年度のオータムカンファレンスでは研究者視点だけではなく、政策立案者としての行政的視点をも含めて、多角的な観点から議論を深めていきたいと思っております。

今年度の全国大会およびオータムカンファレンスは静岡市内に位置する静岡大学静岡キャンパスで開催されます。コロナ禍の状況次第では開催方法などに関して変更も予想されますが、多くの会員のご参加をお待ちしております。

静岡大会実行委員会：遠山弘徳（静岡大学）、横田宏樹（静岡大学）

オータムカンファレンス

日時：2020年9月19日（土）

場所：静岡大学静岡キャンパス

年次大会「現代資本主義の変容と地域の制度設計」

日時：2021年3月27～28日

場所：静岡大学静岡キャンパス

Evolutionary and Institutional Economics Review(EIER)の現状報告

八木紀一郎 (Editor-in-Chief)

1) EIER の実績

進化経済学会は 2004 年に年 2 号刊の英文国際誌 *Evolutionary and Institutional Economics Review* (通称 EIER) を創刊し、現在は第 17 巻 (2020 年) を数えるまでになっています。第 12 巻 (2015 年) からは、国際的な学術出版社 Springer Nature 社の日本法人シュプリンガー・ジャパンとの出版契約にもとづいて Electronic Version (オンライン版) と Print Version (冊子版) の双方で刊行されています。

EIER によって公表された学術論文等は 300 点を超えていて、2018 年のダウンロード件数は 16,319 件、2019 年のそれは 15,833 件になっています。同誌の Aims and Scopes に掲げた目標は、「進化的および制度的な経済学に至る新しい理論的・経験的アプローチのための国際的フォーラム」となることでした。その基礎は築かれたと思います。しかし、国際学術誌としての発展、学会という基盤との結びつき、企画・編集・査読などの業務分担のいずれにおいても課題を抱えています。学会 NL の紙面をお借りして、今後の検討の素材となるよう EIER の現状と問題点を説明します。

EIER の実績として、表 1 をごらんください。Springer Journal に仲間入りした第 12 巻 (2015 年) が大きな区切りになっています。それまで 1 巻あたりの掲載点数が 20 点を超えられなかったのが 30 点前後になり、総ページ数も 400 ページ、500 ページを超えるようになりました。

Springer 社との提携によって、それまでの EIER につきまとった刊行経費、制作技術不足、国際誌の世界への参入障壁等の問題が解決されました。学会会員に冊子版の EIER を配布することはできなくなりましたが、毎年 4 月に電子版の EIER を無料で閲読・ダウンロードするためのアクセスコードを配布しています。冊子体に慣れた会員には申し訳ありませんが、学会誌の電子化も学術界の趨勢としてご理解いただけるようお願いします。

	掲載点数	会員著*	論文	その他	総ページ	ダウンロード件数	投稿件数
Vol.16(2019)	32	19	23	9	564	15,833	75
Vol.15(2018)	28	17	20	8	529	16,319	59
Vol.14(2017)	30	12	25	5	554	10,292	23
Vol.13(2016)	27	9	26	4	496	5,452	49
Vol.12(2015)	27	14	17	10	412	3,655	42
Vol.11(2014)	11	6	7	4	136	?	?
Vol.10(2013)	16	6	13	3	327		
Vol.9(2012)	15	10	13	2	198		
Vol.8(2011)	13	7	10	2	319		
Vol.7(2010)	18	6	15	3	394		
Vol.6(2009)	17	5	14	3	340		
Vol.5(2008)	17	11	10	7	316		
Vol.4(2007)	16	8	8	8	317		
Vol.3(2006)	13	9	10	3	296		
Vol.2(2005)	12	3	10	2	223		
Vol.1(2004)	11	7	10	1	234		
計	303	149	231	74	5655		

*学会所属のカウントは推定による

表 1 : EIER 誌の実績 2004~2019 年

2) 国際学術誌としての発展の課題

国際的出版社と提携するということは、国際基準のクォリティの維持、インパクトの強化が求められるということです。もちろん、EIER 誌の編集権と著作権はこれまでどおり学会が保有していますが、契約の更新のことを考えると Springer 社の方針をも考慮せざるを得ません。

Springer 社は毎年、EIER 誌の実績数値を示した Publisher's Report を作成してくれます。手もとにある 2018 年度の Report の Circulation, Usage, Impact, Marketing の部分を一読すると、まだまだ新興マイナー誌の域を出ていないように思われます。Springer 社の Online Deal は 5000 以上の機関をカバーしていますが、そのすべてが EIER を選択購入してくれているわけではありません。他方、EIER 単独で機関購入をしているのは、冊子版・電子版併用が 17 機関、電子版のみが 1 機関で、前者のうち日本国内が 13 機関で、海外は 4 機関だけです。

非会員の場合は、キーワード検索等で関心を惹く EIER 論文を見つけたとしても、所属機関が EIER を購入していない場合は、論文ごとに代金（3～5 千円程度）を支払わなければ読むことができません。EIER で論文を公表する著者のなかには、Springer に代金を払って無料でアクセス可能（OA:オープン・アクセス）にする方もいます。そのようにすると、そうしない論文へのアクセス数が 2 桁台であるのに対して、アクセス数が 500～2000 件に跳ね上がります。* 実は現在、「オープンサイエンス」に向かう学術界の流れのなかで、研究成果をオープンアクセスで公表することが奨励されはじめています。EIER でも、OA 化の料金が手当てできそうな著者には、そうするように薦めたいと考えています。**

* なお、雑誌の利用度については、2 年間で公表された論文の同期間におけるアクセス数のメディアンが採用されていて、EIER のそれは 2016/2017 では 75 件、2017/2018 では 71 件でした。

** Springer Nature 社もオープンサイエンスの理念には反対していませんが、その学術誌をすぐに全面的なオープンアクセス・ジャーナルにすることはできないので、OA の割合を次第に引き上げていく transformative journal を考慮しているようです。内外の学術界の動きをみて対処すべき事柄になるかもしれません。

EIER は EBSCO や Google Scholar など多くの A&I サービスの対象になっていますが、SCOPUS にはまだ入れてもらっていません。Impact として重視されるのは引用回数で、引用があった論文のうち最多頻度のものの引用回数が示されています。（2017 年は 7 回、2018 年は 8 回）社会的なインパクトとして、いくつかのソーシャル・メディアでの登場回数が Altmetric として調査されていて、2017 年には Tweets28 回を含む全 36 回の言及、2018 年には Tweets17 回を含む全 18 回の言及があったとのことです。（こんなことまでカウントされているというのは正直言って怖ろしいと感じますが・・・）

外部の評価者から、EIER 誌上で公表される研究成果の著者の地理的偏りを指摘されることがあります。しかし、日本の学会に基礎を置く雑誌として、一定割合が日本の研究者や本学会会員になるのは当然でしょう。基本は、本誌の目的に照らしてのクォリティを基準に評価してほしいということです。クォリティを高めインパクトを強めるという意味では、特集も含めて著者・公表研究成果の国際化をさらに進めることも必要です。

3) 編集・査読などの問題

Springer 社に出版を委託するようになってからは、編集・査読依頼・採否決定などの作業、査読者の査読報告、投稿著者の投稿・(修正再投稿)・校正などの定型作業はみな Editorial Manager というインターフェースで行われています。表 1 にもあるように、投稿件数は掲載件数の 2 倍前後ですが、著者自

身が取り下げたり、他の Springer Journal に Transfer することもあります。投稿論文はまず担当編集委員 (Associate Editor) に回され、この委員が査読者 (Reviewer) を選定します。査読者は Editorial Manager 上で、定型的な質問に答え、著者に伝える事項 (判定根拠や改善示唆) を記して Adopt, Minor Revision, Major Revision, Reject の評価を下します。決定は担当編集委員が下しますが、複数の査読結果にもとづかなければ決定をおこなうことはできません。投稿受付から第一次の決定にいたるまでの平均期間は、現在のところ 90 日、投稿から最終決定にいたるまででは平均 136 日になっています。これは編集工程の円滑化をはかることでもう少し短縮できると思います。最終決定で Adopt となると原稿は制作チームにまわり、著者とのやりとりを経た上で 20 日程度で DOI を付してインライン公開 (Online First) されます。それらを後から巻号に割り付け、通しページ数を打って冊子版をつくることとなります。

編集作業で最も苦勞している問題の一つは、適切な担当編集委員と査読者の確保です。EIER 誌は間口が広くまた革新的な内容の投稿を歓迎しますので、しばしば適切な担当編集委員、査読者の選定が困難になる場合があります。投稿が 70 件あれば、担当編集委員が同数、査読者が 140 人必要です。これまで何とかなってきたのは、担当編集委員が査読者を兼ねたり、特集企画者に担当編集委員の役割を委嘱して適切な査読者を確保していただいたりしてきたからです。しかし、一般投稿については、適切な担当編集委員の選定から出発せざるをえません。海外の研究者や非会員の国内研究者に査読を依頼することも多々あります。応じていただける比率は、学会会員に査読を依頼する場合と変わりません。

それだけでなく多忙ななかで、英文で Review 結果を記さなければならない依頼が舞い込むことを迷惑に思われるのは当然でしょうが、投稿論文に目をとおす余裕がある場合には、ぜひお引き受けいただけるようお願いいたします。日本人研究者にとっても、国際学術誌での査読経験は、国際的な研究動向を知り、また自分で英文論文を執筆・投稿するためにも、有益ではないかと思います。また最近では、査読を依頼されそれを果たすこと自体が、研究活動の一部として研究者の活動評価の対象になっています。なお、学会会員の場合には、学会の仮想通貨 JAFEE が創設された場合、この仮想通貨で謝礼が支払われることになるでしょう。

EIER の編集体制は、Springer 社との出版契約締結時に多層化して整備されました。不肖の Editor-in-Chief、出版契約締結時に学会会長、副会長であった藤本隆宏会員と有賀裕二会員が Coordinating Editor (有賀会員は Managing Editor)、その多くが学会会員である 17 人の日本人研究者を含む 23 人が Associate Editors, 17 人からなる Editorial Board, 11 人からなる Advisory Board という陣容です。編集委員会は年に 4 回程度、年次大会、オータムコンファレンスの時期のほか、しばしばシュプリング・ジャパン社の会議室を借りておこなわれてきました。これからは ZOOM 会議室、あるいは Springer 社のシステムによる遠隔会議方式をとることが多くなるでしょう。

せっかく整えた多層的な編集体制の印象的な陣容を十分に活用できなかったのは、Editor-in-Chief の不徳の至りと言わざるをえません。この編集体制、とくに Associate Editors と Editorial Board の活性化をはかりながら、Advisory Board などの海外研究者からの提案およびアドバイスなどを受けることができれば、国際学術誌としてのさらなる発展も可能と思います。新体制の成立後の変化、世代交代の機運もありますので、人の入れ替えも含めて編集体制の強化をはかっていただきたいと思います。

EIER の出版経費は現在、年 1 巻 2 号刊行で 200 万円、消費税込みで 220 万円です。Springer 社と契約する以前の、EIER の刊行費による学会財政への圧迫が、これにより大きく軽減されました。しかし、編集経費については予算なしでやってきました。これについても、学会内通貨 JAFEE の利用を含むミニマムな予算とその支出ルールが必要かもしれません。

4) 学会基盤との関係

最後の問題は、国際学術誌としてのEIERと基盤となる進化経済学会およびその会員との連携にです。EIER誌は国際学術誌であると同時にその編集権を学会が保有する学会機関誌でもある1種のキメラです。しかし、後者の特質を前面に出すと閉鎖的な雑誌であるという印象を与えかねません。「機関誌」といっても、学術誌として位置づけられる限りでは、学会会員だけを直接の対象にした記事を、本誌から外すのも止むをえないことでしょう。学会内部での通信や討議のためには、『進化経済学会ニューズレター』と学会ホームページ、学会ML (evoecojapan_new) があります。それらを充実・活性化していただけますよう、要望させていただきます。

EIER誌の編集権を学会が保有することの具体化は、編集体制において学会会員の優位を確保して、その企画および評価にもとづいた編集をおこなうことにあります。それによって、EIER誌を進化経済学会の目的、つまり「質的变化をともなう動態的な視角によって経済理論の変革と発展をはかる」(会則第2条)に合致させることができるからです。

他方で、他の新興学術誌と比べてのEIERの強みは、進化経済学会という母体の支持を出版費のみならず投稿・編集・普及・利用面で当てにできるということです。そうでなければ、投稿・審査・掲載時に多額の料金をとることで維持される「はげたかジャーナル」になりかねません。オープンアクセス・ジャーナルへの動きにSpringer Nature社がどう対応し、EIER誌に対してどのような要望を出してくるかはまだわかりませんが、私たちは進化経済学会という基盤との連携を重視して対応すべきでしょう。

国際学術誌が同時に学会機関誌であり続けるためには、EIER誌での特集企画や個別論文の紹介、討議をこれまで以上に発展させ、学会での討議とEIER誌上の討議が共振するような構造をつくり出さなければなりません。学会での討議をEIER誌上での特集に発展させるのも有意義なことでしょう。こうした学会基盤との連携については、現在の編集委員会にも、なすべき事が多くあることを再確認して、この現状報告を閉じます。

Evolutionary and Institutional Economics Review, Vol. 17, No. 1のご案内

EIERの第17巻1号(2020年1月号)の目次を紹介します。すぐに第2号(2020年7月号)が続きます。

EIER編集委員会

Springer Link (<http://link.springer.com>)で上部の[Sign up/Log in]をクリックしてご自分の名前が現れば既にログイン状態です。お名前が現れずに[Welcome back. Please log in]となる場合には、ご登録された際のメール・アドレスと設定されたパスワードを入力すれば、ログイン状態になります。登録をまだされていない方は、右上に表示された User 名をクリックして現れるプルダウンメニューの中から[Account details/profile]をクリックし、そこで現れる Association code ボックスに今年4月28日付事務局長(Akiyoshi Arakawa)発メールで配布されたアクセスコードをコピー&ペーストした上で[Associate] ボタンをクリックすれば登録完了です。EIER誌の到着アラートを設定されることもお勧めします。

Evolutionary and Institutional Economics Review Vol,17(1), January 2020

Wage and employment in a dynamic insider-outsider model

Marco Guerrazzi Pages 1-23

Gender-specific reference-dependent preference in the experiment trust game

Hiromasa Takahashi, Junyui Shen ... Pages 25-38

Network centrality, social loops, and utility maximalization

Hideki Fujii Pages 39-70

<Survey Article> Post-Keynesian institutionalism: past, Present, and future

Charles J. Whalen Pages 71-92

<Discussion> Globalization and the erosion of geo-ethnic checkpoints: evolving signal-boundary systems at the edge of chaos

Chris Girard Pages 93-109

<Discussion> Economic patterns in a world with artificial intelligence

Dick Nicolas Wagner Pages 111-131

<Note> From general equilibrium theory to the economics of uncertainty: a personal perspective

Yasuhiro Sakai Pages 133-143

<特集>

The 7th International Symposium on Human Survivability "Let's Work Together Toward Achieving the Sustainable Development Goals"

Preface by Yuichi Ikeda Pages 145-149

Vision, identity, and collective behavior change on pathways to sustainable future

Ilan Chabay Pages 151-165

Measuring countries' progress on the Sustainable Development Goals: methodology and challenges

Michael Shimwell, Guillaume Cohen Pages 167-182

Power grid with 100% renewable energy for small island developing states

Yiichi Ikeda Pages 183-195

Coevolution of institutions and residents toward sustainable glocal development: A case study on the Kuni Umi solar power project on Awaji Island

Natsuka Tokumaru Pages 197-217

Location-sector analysis of international profit shifting on a multilayer ownership-tax network

Tembo Nakamoto, Odike Rouhban, Yuichi Ikeda Pages 219-241

The Shift of food value through food banks: a case study in Kyoto, Japan

Ayaka Nomura Pages 243-264

An inter-disciplinary study: disseminating information on dengue prevention and control in the world-famous travel destination, Bali, Indonesia

Minato Jen Yoshikawa, Rita Kusriastuti Pages 265-293

会員異動

1. 退会者

会員名	フリガナ		所属一機関名	会員種別
溝端 佐登史	Mizobata	Satoshi	京都大学経済研究所	個人会員
半田 正樹	Handa	Masaki	東北学院大学経済学部	個人会員
篠原 正人	Shinohara	Masato	東海大学海洋学部	個人会員
井上 泰日子	Inoue	Yasuhiko	日本航空人事部研究開発室	個人会員

2. 2018年度末退会者

会員名	フリガナ		所属一機関名	会員種別
関 良基	Seki	Yosiki	(財)地球環境戦略研究機関(IGES)	個人会員
堀越 比呂志	Horikoshi	Hiroshi	慶應義塾大学商学部	個人会員
山本 堅一	Yamamoto	Kenichi	北海道大学高等教育推進機構 高等教育研修センター	個人会員

3. 前回入会承認者

会員名	フリガナ		所属一機関名	会員種別	推薦会員
大畑 勇輔	Oohata	Yuusuke	中央大学経済研究所 (客員研究所)	個人会員	浅田統一郎先生 黒瀬 一弘先生
奥村 隆一	Okumura	Ryuichi	東京工業大学 情報理 工学院 情報工学系 知能情報コース	個人会員	出口 弘先生
深澤 薫平	Fukazawa	Kumpei	神奈川工科大学 情報 学部 情報工学科	学生会員	八木 勲先生 小野崎 保先生

4. 入会希望者

会員名	フリガナ		所属一機関名	会員種別	推薦会員
横出 俊一	Yokode	Shunichi	和歌山県庁	個人会員	吉田 雅明先生 大阪 洋先生
伊藤 真利子	Ito	Mariko	東京大学大学院情報理 工学系研究科	個人会員	大西 立顕先生 荒川 章義先生
三好 宏治	Miyoshi	Koji	神戸学院大学 (非)	個人会員	宇仁 宏幸先生 藤田 奈々子先生
大野 隆	Ohno	Takashi	同志社大学 経済学部	個人会員	佐々木 啓明先生 黒瀬 一弘先生
横出 俊一	Yokode	Shunichi	和歌山県庁	個人会員	吉田 雅明先生 大阪 洋先生

5. 休会

会員名	フリガナ		所属一機関名	会員種別
後藤 和子	Goto	Kazuko	埼玉大学経済学部	個人会員
川口 正樹	Kawaguchi	Masaki	外務省アジア局東南アジア第一課	個人会員
徐 龍燮	Seo	Yong-Sub	(元) 京都大学大学院経済学研究科	学生会員
橋本 千津子	Hashimoto	Chizuko	北海道大学大学院経済学研究科	学生会員
平野 耕一	Hirano	Koichi	リバプール大学	学生会員
中嶋 眞澄	Nakajima	Masumi	鹿児島国際大学経済学部	個人会員
石田 聡子	Ishida	Satoko	岡山大学大学院社会文化科学研究科	個人会員

6. 宛先不明

会員名	フリガナ		所属一機関名	会員種別
高藪 学	Takayabu	Satoru	東京学芸大学人文社会科学系	個人会員
馬場 真一郎	Baba	Shinichiro	(元) 京都大学大学院経済学研究科	学生会員
山本 泰三	Yamamoto	Taizo	四天王寺大学・非常勤 ほか	個人会員
中谷 光博	Nakaya	Mitsuhiro	専修大学大学院	学生会員
小林 大州介	Kobayashi	Daisuke		個人会員
田原 慎二	Tahara	Shinji	内閣府 経済社会総合研究所 国民経済 計算部 国民生産課	個人会員
三浦 真岐	Miura	Maki	石巻専修大学経営学部	個人会員
Okur Dincsoy Meltem			Trakya 大学	個人会員
八巻 恵子	Yamaki	Keiko	広島大学マネジメント研究センター	個人会員
加藤 寛之	Kato	Hiroyuki	国士舘大学 政経学部	個人会員
Alonso Moreno Oscar Miguel	Alonso Moreno	Oscar Miguel	東京工業大学大学院総合理工学研究科	学生会員
大熊 匠美	Ohkuma	Takumi	中央大学大学院経済学研究科	学生会員
加藤 浩司	Kato	Koji	京都大学大学院経済学研究科修士課程 2 回生	学生会員
川村 哲也	Kawamura	Tetsuya	大阪大学社会経済研究所	個人会員
金 佑眞	Kim	WooJin		個人会員
竹岡 良輔	Takeoka	Ryosuke	(株) JTB 総合研究所	個人会員
高野 宏康	Takano	Hiroyasu	小樽商科大学	個人会員
佐藤 了	Sato	Ryo	The Node Consulting 株式会社	個人会員
韓 丹	Han	Tan	名古屋大学経済学研究科	学生会員
李 素軒	Lee	So-heon	帝京大学経済学研究科研究員	個人会員
Nan Zheng (南 崢)	Nan	Zheng	国際基督教大学 大学院 アーツ・サ イエンス研究科	学生会員

7. 種別変更

会員名	フリガナ		所属一機関名	変更内容
廣田 俊郎	Hirota	Toshiro	関西大学商学部	終身会員
横川 信治	Yokokawa	Shinji	武蔵大学経済学部	終身会員

編集後記

新型コロナウイルス感染症と共存する新しい生活様式が始まった今日このごろです。進化経済学会の会員の皆様におかれましても、どうかご安全にお過ごしください。

ここに、進化経済学会ニューズレターNo.48をお届けいたします。コロナ禍により、各研究教育機関に大きな業務上の変革を迫られたことと察します。私の場合、通常の授業は、ゆらぎがありながらも、多分にゆとりのある定常過程におけるルーティンでありました。ところが、今回のショックにより不確実性と複雑さが増し、新しいことへの対応の連続になっています。

本学会の開催方法にも変化がありました。この5月には進化経済学会仙台大会がオンラインで開催されました。わたしも参加させていただき、様々なセッションの報告を伺うことができました。対面によるディスカッションがもたらす研究の創発効果はもちろん重要ですが、オンラインでも工夫次第で、さらなる活性化も期待できる、そんな感想をもちました。これは学会の部会でも同様です。

第24回大会がオンラインで開催されたことは、本学会史上初の試みです。もっとも、学会の進行がスムーズに進んだのは、まずもって仙台大会実行委員の皆様の大変なご尽力に他なりません。この場を借りて、感謝申し上げます。

ニューズレター編集担当：西 洋（阪南大学）